

令和5年度 栗山町ケアラー支援推進計画評価結果

評価年月日 令和6年4月1日

1. ケアラー支援の必要性や知識を深める広報及び啓発活動

(1) ケアラーに関する情報発信

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) ー(終了)
①ケアラーに関する理解を促進するため、町広報及びホームページ、SNSにケアラー支援に関する相談窓口や活動の状況などを掲載します。	町広報では、連載コーナー「ケアラーの窓」を継続したことや、ヤングケアラーについての特集記事を掲載した。また、町ホームページで、ケアラー支援に関しての情報発信を行った。	○	→
②ケアラー支援に関するリーフレットを作成し、啓発活動に活用します。	社会福祉協議会において、ケアラー支援リーフレットやケアラープレスに関係機関等に配付した。また、来町した視察者等にも上記を配付し、ケアラー支援活動の説明に活用した。	○	→
③ケアラー支援に関する学習会・シンポジウムを開催します。	令和5年9月に、ヤングケアラーをテーマにしたケアラー支援講演会を町、町教委、社協共催で開催した。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容① ・成果？周知されたと思われるのか？ ・町民全体の周知にはあと一歩。 ・広報の特集記事は、写真もあり見やすかったです。 ・町広報は、町民の方々が目を通すので広く知っていただき、良い。 ・ケアラー・ヤングケアラーという言葉自体が、一般に広く認識されたと思います。(施策内容②～③同意見) ・ケアラーに情報が伝わらないことから新しい情報ツールとして要望していたコミュニティFMがスタートすることになり、今後の情報発信に期待します。 施策内容② ・情報発信は色々していますが、相談窓口の認知度はまだ低いと思います。 ・リーフレットは目にしますが、実際に手に取ってもらえるよう工夫が必要だと思います。 ・良い。 施策内容③ ・講演会は参加者も多く、内容もわかりやすかったと思います。 ・広く知っていただけたと思います。良い。		第2期栗山町ケアラー支援推進計画の調査において、生活に不安がある世帯・ケアラー世帯に「ケアラー」の言葉の認識度を尋ねたところ、「聞いたこともあるし、内容も知っている」と回答した世帯は全体の55%でした。より一層、町民の皆様に「ケアラー」の意味や施策の内容の理解を高める必要があるものと認識しております。 今後とも、町広報での特集やホームページ、各種リーフレットなどの媒体などを活用しながら、周知活動を継続します。	

(2)「仕事」と「介護」の両立支援

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
①企業及び従事者に「仕事」と「介護」の両立支援を理解してもらうため、栗山商工会議所と連携を図り企業セミナーを実施します。	令和5年7月に、栗山商工会議所と連携して、令和5年度 働きながらの「子育て・介護」両立支援セミナーを開催した。セミナーには28名が参加した。	○	→
②「仕事」と「介護」の両立支援に関する研修プログラムを作成します。	働きながらの「子育て・介護」両立支援セミナーの開催内容に基づき、厚労省のプログラムを参考にプログラムを組むことを検討した。	○	→
③「仕事」と「介護」の両立支援ができる「働きやすい職場宣言」企業として、PRできる仕組みを検討します。	商工会議所との協議の結果、企業に対しての介護離職防止、仕事と介護の両立支援への周知・啓発活動を優先課題として位置付けることになった。	△	△
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容① ・総論賛成、各論反対の可能性が大。介護をきっかけに離職して、再就職が困難な事例が隠れている可能性がある。 ・参加者対象者なのか、支援者側なのか。 ・セミナー開催後の感想・反省点。次に活かせるようにすると思います。 ・企業の理解は欠かせませんよね。良い。 ・子どものための介護では、有給を活用し仕事への両立を図る事も多いですが、親の介護となると今すぐではなく、かなり先の事など現実では興味を持ってない世代間ギャップがあり、企業側も積極的でないと思います。(施策②～③同意見) ・企業の管理職を対象とした研修会を行い、企業がケアラーの有無の実態調査を行い、適切な情報を伝え企業が寄り添った支援を行う。(施策内容②～③同意見) ・ワーキングケアラーなどの相談に乗る新しいマンパワーとして、ワークサポートケアマネジャーが出てきました。小さなまちでの採用には困難があることから、北海道に支援を要望してはどうか。		仕事と介護の両立支援は、法制度上、子育て支援に厚く、「介護」に関しては、課題があります。また、事業者の人的資源の問題や経営体力の問題にも繋がります。 第2期ケアラー支援推進計画では、事業者「介護」を身近に知ってもらうための出前講座や助言・相談などを行うのに併せて、企業側の地域貢献などの取組がPRできるような仕組みづくりを検討し、企業に対して「地域づくり」と「介護」問題を意識化する取り組みから進めていく予定です。 企業の実態調査については、町ブランド推進課において雇用実態調査を行っており、調査結果に基づきながら事業内容を検討します。	

施策内容② ・ 内容は？ ・ 企業側の理解を得るのが大変と思われる。研修プログラムを組むのは必要だが、休暇や早退時の給与減をどうカバーするのかのシステムの議論が欠けています。 ・ 企業が取り入れやすいプログラムにしてほしいと思います。 ・ 良い 施策内容③ ・ 具体的な働きかけの内容、企業側の反応？ ・ 企業側のPRよりは、企業内の介護実態を把握する方を先にした方がよいのでは。 ・ 是非実現をお願いします。	
--	--

(3) 関係機関等との協力

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) ー(終了)
①社会福祉協議会が町民向けに発行するケアラー通信を継続的に支援します。	社会福祉協議会にて、ケアラー通信を発行し、町広報に折り込む形で町内に周知した。	○	→
②関係機関と連携し、企業や学校、介護事業所等への出前講座を実施します。	ヤングケアラー出前講座を実施した。その他の出前講座は、今後の検討課題として協議予定。	○	→
③関係機関等が開催する啓発活動や研修会等を支援します。	町内会の任意のコミュニティ活動に参加し、ケアラー支援についての説明や、職員の派遣を行った。	○	→
④教育委員会や学校と協力し、ヤングケアラーに関する講座を実施します。	令和5年9月から同年12月にかけて、町内の小学校、中学校、高校に授業の一環でヤングケアラーの出前講座を実施した。約300名の児童・生徒が参加した。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容① ・周知のために継続するべきだと思います。 ・良い。 ・栗山町ケアラーお出かけ安心サービス事業等、ケアラーが一番活用したい情報をもっともっと発信して頂きたい。 （施策内容②～④同意見） ・学校は、出前講座を受け入れてくれても企業になると正直厳しいと思います。少しずつ半歩前進しましたね。 （施策内容②～③同意見）		ケアラー通信を含めた周知媒体の浸透度は、今後とも把握に努めたいと考えております。 出前講座や研修会支援など、ケアラーに関することを含めて、都度、関係機関からの依頼に応じる予定です。 ヤングケアラーの出前講座では、子どもたちから「ヤングケアラー」の言葉は聞いたことがあったが内容は知らず学びになった。手伝えることがあれば手伝いたいなどの感想がありました。「ヤングケアラー」自身も含めた気づきと学びの場になることから、今後とも講座を継続する予定です。	
施策内容② ・地域で目に見える活動をしたのは良かった。 ・介護について知ってもらうためにも積極的に取り組んでほしいです。（施策内容③同意見） ・町内会にもいらして下さい。			
施策内容③ ・地域の人たちや対象者の意識にふれたのではないかと思います。 ・良い。			
施策内容④ ・今後も続けて、ヤングケアラーについて知ってほしいです。 ・子どもたちは理解できていましたか？ ・小中高校でのヤングケアラーの出前講座は、継続が必要だと思う。ヤングケアラーの発見にもつながると思います。			

(4) 各専門職との情報共有

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) －(終了)
①潜在するケアラーを把握するため、介護事業所連絡会議等を活用し、ケアラーの状況や支援策等の情報共有を図ります。	居宅介護支援事業所（ケアマネ）向けにケアラー支援に関するアンケート調査を実施した他、ケアラーに関する研修会や制度周知などの情報提供を行った。	○	→
②各専門職、サービス提供従事者がケアラーに関する理解を深めるため、介護従事者技術研修を実施します。	事業所向けに、介護従事者技術研修を令和5年7月と令和6年3月に2回開催した。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容① ・ケアラーの状況把握のためにも、情報共有は必要だと思います。 ・自身がケアラーであることを発信できるように、言いやすい環境が大事。 ・良好な協力関係だと思います。（施策内容②同意見）		介護事業者連絡会議は定例月1回実施し、ケアラー関連施策に関しての情報提供を行いました。 ケアマネジャー事例検討会を年4回実施し、ケアラーを含めたケース検討を行いました。 介護従事者技術研修では、感染症対策や終末期の訪問看護をテーマとして開催しました。今後とも継続予定です。	
施策内容② ・技術の向上、情報量を増やすためにも研修は続けてほしいです。 ・良い。			

2. ケアラー支援を担う人材の育成

(1) ボランティアの養成

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) ー(終了)
①ケアラーに代わって被介護者を自宅で見守り・サポートができる体制を図るため、町民ボランティアを養成します。	令和6年3月にケアラーサポーター養成講座を実施し42名が受講した。現在、11名のサポーターが活動している。	○	→
②ボランティアの能力開発を目的とした研修を開催します。	ケアラーサポーターにおいて、活動報告会を開催し、情報交換や意見交換を行った。	○	→
③支援が必要な町民(ケアラー含む)の日常生活のサポートが行えるよう、支え手と受け手を繋ぐ仕組みとしてボランティアセンター機能を拡充します。	有償ボランティア「ちょこっとボランティア」をスタートさせ、支え手と受け手を繋ぐ調整を行っている。現在は5名の登録者が支え手として活動している。	○	→
評価(意見・要望)		施策の方向性	
施策内容① ・各町内会、老人クラブ、民生委員などにケアラー支援体制と条例の理解を深める活動を不断に継続した上で成就すると思います。 ・養成講座受講から活動につながるのは、良いと思います。 ・活動できる方をうまく回せるといいですね。例えばローテーションを組む。 ・ケアラーサポーターや有償ボランティアを育成し、ケアラーからの要請に対応できる体制が必要。(施策内容②同意見) ・受講・登録・活動してくれているサポーターがいる事は成果が上がっていると思います。(施策内容②～③同意見)		ケアラーサポーターの養成は、講座の開催を含めて今後とも実施します。また、いのちのバトン世帯の他にも訪問対象を広げる予定です。 なお、ケアラーサポーターのスキルアップは、定期的に報告会などを開催し、日頃の疑問点の解消や意見交換を行っています。今後の研修の在り方は検討いたします。	
施策内容② ・情報取得のためにも研修開催してほしいです。 ・良い。			
施策内容③ ・登録者を増やすためにも、取り組みやすい仕組みを広めてほしいです。 ・良い。			

(2) 北海道介護福祉学校との連携

施策内容	実施状況・今後の予定	事業の進捗状況 ○(概ねできている) △(準備中) ×(要検討・未着手)	方向性 →(継続) △(変更) ー(終了)
講師派遣等の技術的支援や人材養成の研修プログラムの開発など、北海道介護福祉学校と連携を図ります。	北海道介護福祉学校と連携し、学生ボランティア9名が、タブレット講座の活動に参加した。また、学生のヤングケアラー実態調査を実施し、学校側と情報・意見交換を行った。	○	→
評価（意見・要望）		施策の方向性	
施策内容 ・学生にとってもプラスになると思うので、ボランティアに参加してもらうのは良いと思います。 ・介護学校の存在は大きいですね。		北海道介護福祉学校とは、タブレット講座やヤングケアラー実態調査での協力以外にも、人材養成の研修プログラム開発、啓発のための研修会等における講師派遣など様々な活動で連携する予定です。 また、学生がヤングケアラーを含めたケアラー支援に関する地域問題をより理解するために協力関係を構築し、今後も授業内容にケアラー支援を取り入れています。	